

骨密度測定装置

GE社製 PRODIGY Primo

骨塩定量検査とは人体の骨の密度が低下していないかを調べる検査です。骨の密度は成長期に増加し、30~40歳代で最大に達し、それ以降は年齢とともに減少します。骨の密度が極度に減少し、骨がスカスカになった状態を骨粗鬆症といい、ちょっとしたことで骨折しやすくなります。骨粗鬆症の大半は高齢からくる老人性骨粗鬆症ですが、カルシウムの摂取不足、運動不足、喫煙なども骨粗鬆症を引き起こす原因になります。

DEXA(デキサ)法

二重エネルギーX線吸収法ともいい、高低2種類のエネルギーのX線を照射し、透過度が骨と周囲とで異なることを利用して骨量を測定します。検査は、寝台に横になり、X線で骨密度を測定します。超音波法よりも精度が高く、腰椎や大腿骨頸部のほか、全身どこでも測定できます。

